

# 三次で出前授業と現場見学会

## 八次小 流域治水の重要性学ぶ 4年生

肥海建設

肥海建設（広島市安佐  
北区可部1-16-1、肥  
海裕二社長）は、三次市  
島敷町の市立八次小学校  
の4年生77人を対象に、  
出前授業と工事（令和6  
年度江の川上流河道掘削  
他工事）現場の見学会を  
開いた。工事を発注した  
中国地方整備局三次河川  
国道事務所が協力し、児

童たちは流域治水の重要  
性について学んだ。

先月25日に同社の社員  
と同事務所の職員が同小  
を訪れ、「自然災害から  
暮らしを守る」をテーマ  
に授業を行った。はじめ  
に、同社の担当者が近年  
の異常気象による大雨や  
土砂災害の増加について  
説明。三次市内で過去に

発生した水災害の事例も  
挙げ、氾濫防止、被害軽  
減、早期復旧を図る流域  
治水の取り組みの重要性  
を強調した。

また、災害対応の考え  
方として「公助・共助・  
自助」の三つの役割を分  
かりやすく説明した上  
で、特に「自助は自然災  
害が起きた際、命を守る

ために最も大切なこと」  
と児童たちに伝えた。

その後、児童たちは2  
グループに分かれて、水  
災害や土砂災害について  
学んだほか、同事務所が  
用意した流域治水の取り  
組みの効果を紹介する模  
型を使った実験を通じて  
河川整備、調整池整備、  
水田・農業用ため池の活  
用など、流域全体で激甚  
化する水災害へ備えるこ  
との大切さを実感し、防  
災意識を深めた。

社の中吉伸介氏は「この  
現場は水辺の楽校（がっ  
こう）プロジェクトに登  
録され、自然体験や環境  
学習するための水辺空  
間が整備されていた場所  
ということもあり、地域  
の子どもたちに見てもら  
うことができて良かつ  
た。また今、社を挙げて  
取り組んでいる建設業の  
イメージアップにもつな  
がれば」と期待を寄せ  
た。

引き続き、同小近くの  
馬洗川で施工中の現場へ  
移動。工事は国土強靱化  
対策工事（江の川水系流  
域治水プロジェクト）の  
一環として、2020年  
と21年の豪雨で崩れた護  
岸の復旧工事を行っている  
もので、ICT搭載の  
バックホウで土砂を投入  
してローラーで締め固め  
る作業を、児童たちは担  
当者に質問したりしなが  
ら熱心に見学していた。

現場代理人を務める同  
社は昨年10月下旬  
から開始され、今月末ま  
でにすべて完了する運び  
となっている。



流域治水実験に興味津々



記念撮影（ドローン空撮）